

© The Tiffen Company, 2000

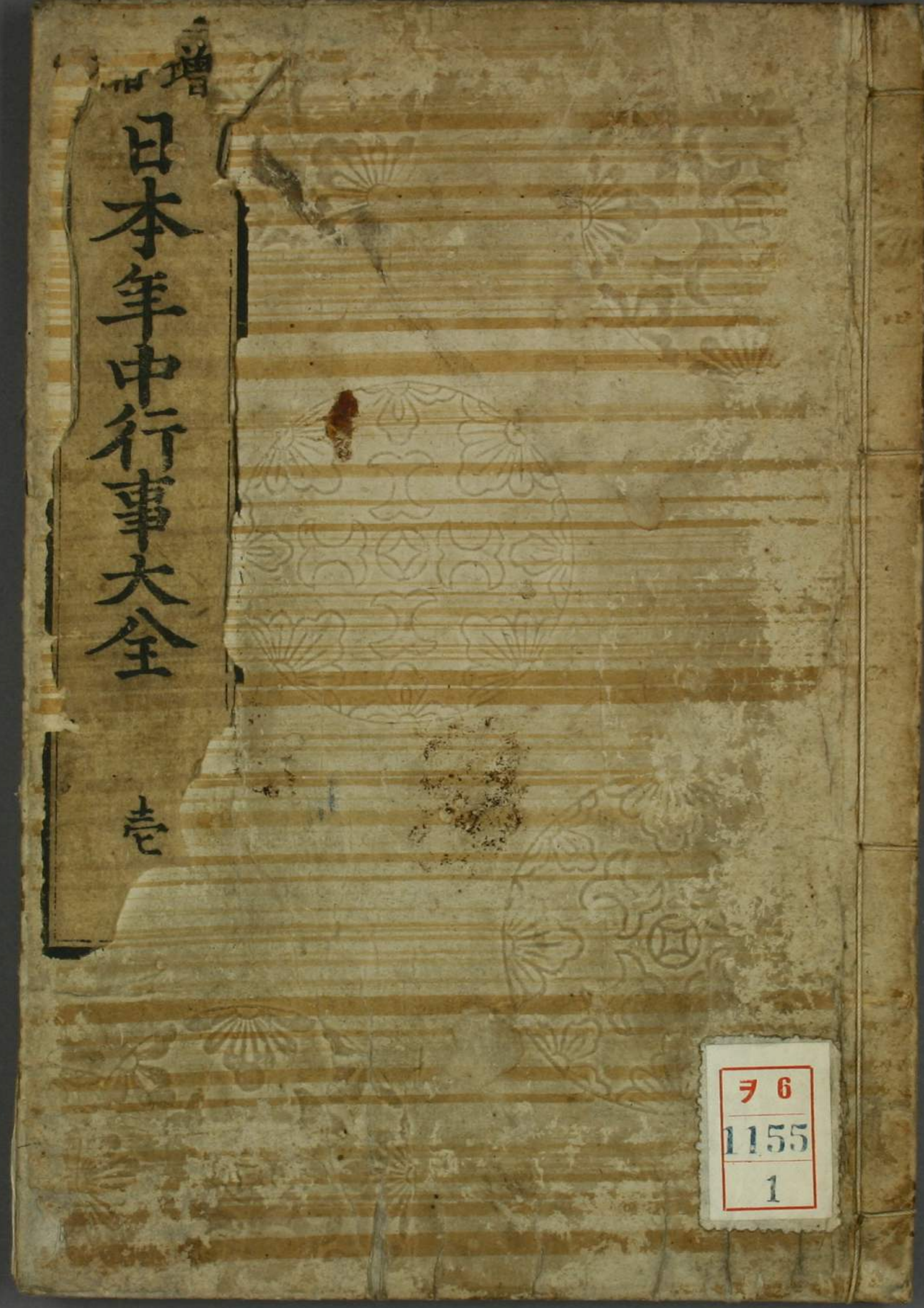
KODAK Gray Scale

C

Y

M

Kodak
LICENSED PRODUCT



増
日本年中行事大全

巻

76
1155
1



門 卷 6
新 1155
卷 15



速水春曉齋遺稿

增補 大日本年中行事大全

森川保之畫圖



當時 增補 大日本年中行事大全卷一

正月

初寅ついで山鞍馬寺くらまのてら初寅ついで系流けいりゅう松尾山まつおのやまと号なづか以もつ本ほん寺てらの毘び沙し門もん天てん延曆えんりやく年中なかつね植うゑ美み和尙わじやうの景けい創そう大だい中ちゆう右みぎ丈ぢゆう候こう路ろへ
の建たて立た寺てら約やく二に百ひゃく二に十じゅう六りく石いし毘ひ沙し門もん天てんの福ふく徳とくの石いし口くち方かたにに置おか
かゆ人ひとよき門もん天てんと翻かへと際さかい際さかい祚そを降くだ伏ふせ先ま福ふくのの産う生まに
福ふく徳とく災わざいあへりああ天てんををたたるるれい今いま日ひ未ま結むすして福ふく徳とくをを新あらたらしめ
結むすありああ寺てられら本ほん寺てらの初ついで寅とらの日出ひで現げんあり由ゆ縁えんとといいふふを
福ふく日ひとと以もつ鞍くらまの古ふる民たみ相あひとと違ちがひひ小こ利りをを大だい意いををううま

群臣天子を拜し、後ふ親王、攝家、河元、常の奉、因と
異して、其俸、又、天、孟、天、教、美、能、を、給、山、其、條
元日の宴、今、あり

○系 祇園、削、掛、神、奉、寅、節、拜、殿、を、行、り、○系 法、社、神、供

○系 六、系、道、場、大、神、寺、町、神、土、落、あり、画、像、因、帳、○山 船、舟、院

元、三、大、師、自、筆、画、像、真、像、○山 仁、和、寺、北、野、鞍、馬

平、王、加、持、衣、入、○山 泉、涌、寺、舍、利、因、帳、日、中、後、一、時、の、り、正、徳

○山 彦、徹、清、涼、寺、釈、迦、如、來、因、帳、正、徳、三、年、より、毎、月、毎、日、の、り、每、月

○山 比、叡、山、東、塔、修、正、云、略、り、日、西、塔、修、正、云

○山 法、華、山、修、正、云、○山 天、龍、寺、慈、濟、院、亦、才、天、龍

○山 東、寺、大、師、堂、因、帳、毎、朝、子、ま、り、○山 其、外、法、士、院、因

○系 兩、車、形、寺、秋、林、○揚 天、王、寺、講、堂、秘、藏、供、真、奉

實、務、の、朝、拜、辰、奉、左、子、堂、の、法、華、持、奉、己、并、金、塔、奉

利、溝、音、乐、午、の、并、食、堂、万、石、米、酒、奉、六、時、堂、奉、無、縁、奉

○山 安、曇、川、生、經、并、傳、く、の、物、次、供、と、○信 諏、訪、社、蛙、持

○系 市、中、奉、終、今、日、より、小、兒、の、戲、を、男、子、の、林、打、女、兒、の、相

鬼、板、羽、子、つ、ま、り、綯、の、戲、を、行、り、○系 今、日、より、大、黒、神

白、狐、の、俵、を、は、し、或、は、柏、板、を、摩、り、考、遊、小、祝、倍、瓜、唱、奉、奉、奉



北國といえ且鶉の声を
きくても羊の豊凶と判
ずるんと井次といふ
丈夫いそ性尊重りて
陽鳥がうりよ時の吉凶
と報すまも色もを鳴
こく鶉の子とよぶ
ありけり食とひま
葉と争入りのあり
二葉一吉凶と
いふ
只を
声き
いそ
いそ
あ
向
鳴
の
め
り



かき
押
あ
り
ま
あ
ま
子
一
一
起
世
一
和
一
守
月
丸

二日 ① 赤南倉紅糸初寅并 ② 赤本松寺松野子内之橋
 氏大隅氏兩家麻那切始夜入 ③ 今月法之宮各業とす
 不の意と始し高家貴始表之の相始あり ④ 山 愛宕寺
 天狗酒盛今秋門前の法指懸云酒宴以信し去致と
 うし板敷と仰と法探と吹強と音の強これと天狗
 酒多しりふ強指等各祇園云の幸以定む此寺の千親供
 奉の住り初堂の西車寄あり古松と車寄これ松と云
 兵火を免む古代のまこれ堂あり ⑤ 山 智國院方丈今夜
 厨の玉佛徒及び信僕は温純酒を以初山 ⑥ 盧山寺通
 夜 ⑦ 有馬入湯始

三日 ① 山 小野重向連狀 ② 舟并松梅院と初む門懸し
 右邊のら場までま仕の男女鉢打裁り ③ 山東も大師堂
 牛王加持成の并を牛王と云は常とい難記の難記
 免く治人白紙をわく牛王の字を揮くふ ④ 山 固信堂
 牛王加持成の并を牛王と云は常とい難記の難記
 三也来の共く橋の年々建立 ⑤ 山 鞍馬寺同出 ⑥ 山 小山
 大東明神系 ⑦ 山 泉源寺修 ⑧ 山 七明寺 ⑨ 山 比叡山橋川
 西塔元と大師會今曉まの并意遠大師の御名と云は
 入意わふよりえと大師と号は之秋の初ひわくは叡山を
 王城の皇宮より二里より東師の山皆王城と對し松

殿とのと王城と背く五峰の鬼門をさぐるき源土平安城
 のとふ王城は野上福の山守り七由の桓武天皇山城國
 は遷都すまは時の河原延暦七年行教大師の草創なり
 延暦寺す号ひ年号なりはくそくすの半これと娘とす又一宗
 止親流とも号す。中堂の本堂は東師也東師也西塔の本堂は
 也る本。横川の幸る河津元々戒壇堂聖蹟天白法
 仁十四年建立あり坊舎の東塔の東谷は十二坊月西谷は
 十二坊水谷は十二坊南谷は十二坊西塔の南谷は十二坊
 東谷は十坊水谷は十六坊横川は十六坊飯室は七坊寺
 寺は十二坊。総て百二十七坊あり。古のころ坊ありと云け付

い山中のまがひは名取に在り。元之大師の像は毎月
 横川飯室に湯月あり

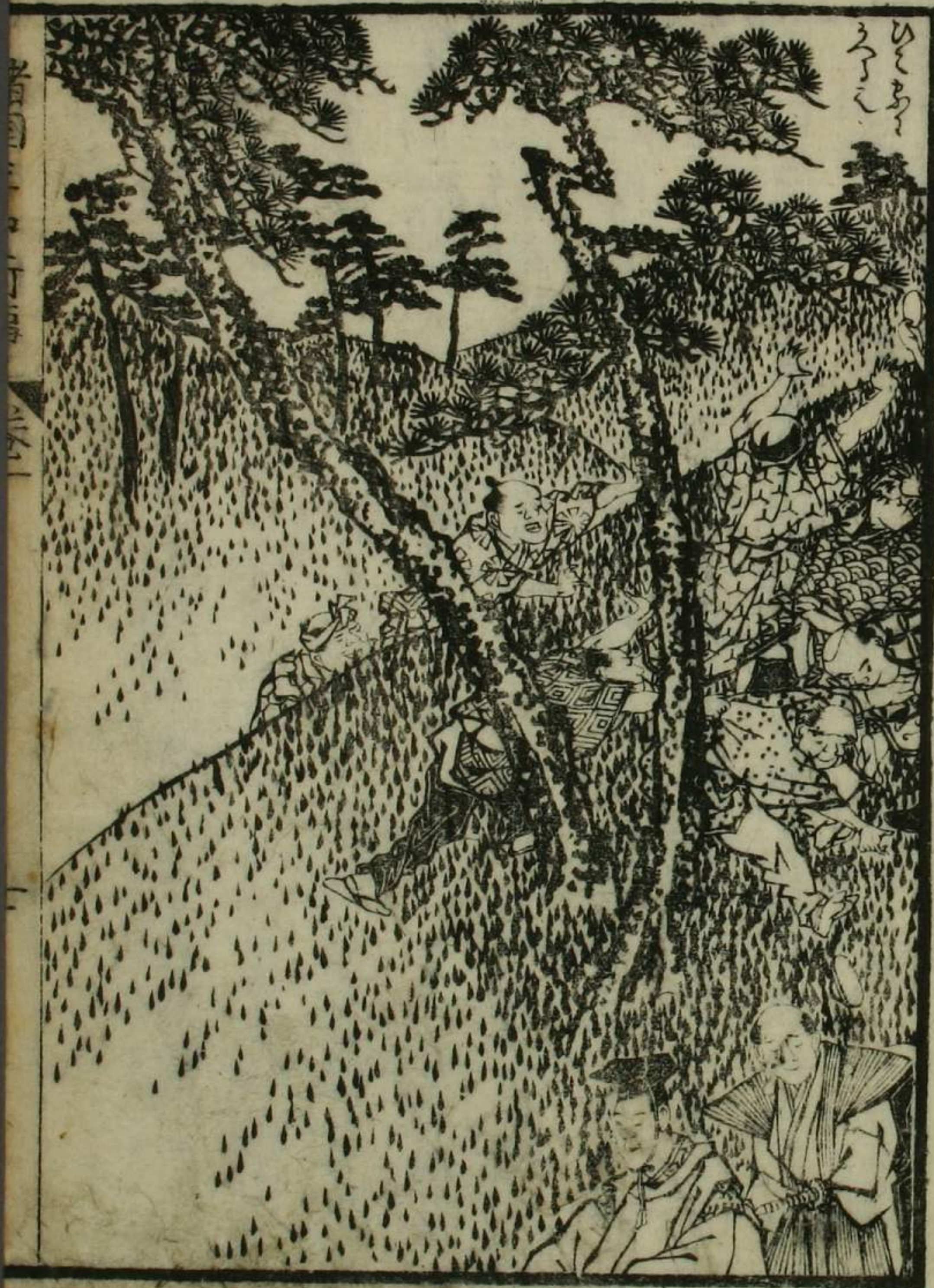
⑫ 元之大師あり ⑬ 大満名石動あり

⑬ 山 永親堂 ⑭ 山 固橋堂 ⑮ 山 百万遍

と云ふ ⑯ 山 元之大師あり ⑰ 山 懸文堂 ⑱ 山 赤紙堂
 著一霞面しる若紙紙の賣官紙をたけりる賣をたけり
 若紙をたけりる若紙紙をたけりる若紙紙をたけりる若紙紙をたけりる
 若紙紙をたけりる若紙紙をたけりる若紙紙をたけりる若紙紙をたけりる

四日 ⑲ 山 元之大師あり ⑳ 山 懸文堂 ㉑ 山 赤紙堂

山 元之大師あり ⑳ 山 懸文堂 ㉑ 山 赤紙堂



ひそか
うさし



洛もつり
三ツ峯の住
僧長六戸五
く社かまを修
して既く下守
そ乃い諸人皮
糸種柄の玉窓
とあそむと
く僅ふも大
うらとひふ
も徳と
もつり

諸國年中行事 卷一

水

天正寺の修り本布有始

五日 内 御新始 仰ち上木子こ御 同 千壽万歳せんざい 幸禊さいぎ

と名 一 本庭ほんてい として修り本布 徳永とくなが あり。一 辰木たつぎ 仙せん 内うち 高たか

活市かついち あり 同 沖倉頭おきくらかみ の供物 山 稲荷いなぎ 之の 寺てら 注つ 儀ぎ 法ぽう 記き

山 本ほん 宿しゆく 寺てら 五ご 百ひやく 延えん 深しん 供く 延えん 深しん 五ご 十じゆ 師し を修しゆ 堂だう 子こ 揚たか

画え 非ひ 殿てん 司し のの 草くさ 子こ あり。非ひ 殿てん 司し を寺てら 南なん 明めい 院いん 子こ 修しゆ

天てん 性せい 画え 女にょ を得え たり 輪りん 荷が の神かみ 乃の 昔むかし 亦また あり 寺てら 中ちゆう

一い 修しゆ 儀ぎ を塔たつたか 出で 一い 新あらた 其その 色いろ 光あかり 輝かがや 延えん 深しん 子こ あり

寺てら 新あらた 之の 儀ぎ 具ぐ 各おのづか あり 山 鞍くら 山さん 負お 物もの 用もち 供く 今いま 日ひ 若わか 令さ

の掛か 也なり 寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

部べ 寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

と寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

知ち 寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

修しゆ 寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

之の 寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

の四し 天てん 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

日ひ 若わか 令さ 寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

修しゆ 寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

寺てら 大だい 王おう 寺てら 子こ 堂だう 中ちゆう 供く 荒あらい 凌りやう 山さん 四し 天てん 王おう 寺てら

によつて揚州王造の岸の上より四天王寺を建立せしむ
 此像を安んずるに於て五年の後推古天皇元年に於
 ての荒陵の東よりして荒陵寺と名付。又難波より
 之を今の天王寺と名付るに西八町南小六丁より小合堂
 溝堂六時堂。合堂。又聖蹟其外法重魏より
 之より堂に成りて聖蹟と名付るに六朝の像後平九
 歳の像あり天王寺聖蹟元年法重魏焼石の華表一人を
考一又元十一年より再建あり
 九十一代法見院の御宇永仁二年より寺に長史慈性法師
 本より舟を改めしを舟形の小堂道風の字釋迦也其法
 輪不尚極築土東門中心より道風の慈性より三百二十年より
のくくくやまの舟の時より

揚一あり一説はけね風の草
よありの舟を改めしを舟形と云

六日 丙 文部門治 揚一あり 門治 方治 山 本山高基寺

方丈懺法愛宕郡八坂より揚一あり山より福宗寺に
 五百石原云居との地度長年中豊後長秀吉公の北
 西新も其基を湖月尼公に地を因有りて九寺に建
 立あり高基院の湖月尼公の号より其世之是政の中
 方丈焼失の後尼公の杉板を移して方丈と成りし
 其大園の像湖月祥尼の像并に塔ありて尼公の石を
 法皇の御宇に於て豊後長秀吉公の女尼井又なるの
 其女よりして豊後長秀吉公の御宇に於て豊後長秀吉公の御宇に於て

の忌日あり。高寺より下へ見下。把法寺。三修法
塔一路り。子若枝。將持。後長。幅。塔あり。又。忠井。寺
あり。又。距。塔。山。あり。年。堂。の。例。は。秋。に。株。あり。花。の。忌
日。人。墨。安。祥。を。も。り。山。相。國。寺。是。利。義。政。公。忌。日。廣。成
忌。日。あり。江。山。王。二。の。文。神。支。社。日。吉。を。支。助。之。也。社。を
志。賀。郡。坂。本。に。あり。是。日。吉。山。王。社。より。上。七。生。中。七。生
ト。七。生。と。い。ふ。事。二十。一。社。あり。二。の。文。に。上。七。生。中。七。生
より。なる。神。國。常。之。事。と。い。ふ。地。用。國。文。神。亦。一。と。い。ふ。地
六。義。の。社。あり。故。は。二。文。と。い。ふ。重。社。の。地。を。横。川。と。い。ふ。た。の
才。故。は。大。志。あり。上。古。白。鷺。明。神。社。約。を。い。れ。不。多。を。波

母。山。より。上。松。樹。の。地。を。以。て。二。社。林。と。い。ふ。在。地。善。所。也。本
國。文。王。寺。を。子。重。修。心。也。月。の。忌。日。あり。四。芝。神。明。あり。芝。を
あり。飯。金。明。神。と。い。ふ。人。白。皇。六。十。六。代。一。条。院。の。御。宇。定。是。以。年
中。活。宜。と。い。つ。て。勤。修。社。額。十。五。石。年。に。集。り。と。い。つ。て。活。人
を。い。ふ。人

七日 内 七州の御郡山 城石寺田村より七輪の吾妻と
社を内 白馬節會夜より入る何月の大段とも内森を以
りる大石元りのみりた在馬家左右馬元河より二足まで
崇高殿殿の前を流り立果あり一條流の御宇御堂園白
乃長より始り内 河弓養立果あり京 今日と堀川端流

町に名を執りて、その名を置て、谷あり、をながく、この
五ふり、五刺を、折して、肉は、あり、北の陣、列府使、應
よ、梅楚、を、い、犯人、を、け、式、あり、犯人、の、首、首、の、長
し、物、(圖) 今、於、毎、あ、ち、ま、れ、粥、を、合、以、七、州、の、こ
け、あ、ぶ、な、ご、ま、や、く、を、い、の、ご、ま、お、す、は、も、も、ち、け

山 聖母社 山 清水寺 牛王 尾井 活人紙を掛く
宝印と押りし 山 山彦天王 山 彦根城 齋堂
佛今より十六りまで (揚) 眞尾宿 揚石 齋那より
眞面山 滝安寺 吉祥院 寺 以 幸 齋 乃 天 辰 小 角 の
作 小 角 の 人 皇 四 十 一 代 持 統 天 皇 の 御 宇 大 和 國 葛 城 の

上部の出生、二十餘年、して、家を、出、給、ひ、今、入、る、
城の岩窟に、着、り、明、呪、を、お、し、て、仙、人、の、入、鬼、神、と、
山谷を、用、き、着、り、其、區、を、わ、げ、一、日、高、城、を、成、ま、る、
て、雲、光、を、い、ひ、見、く、之、結、を、扱、ふ、予、中、は、今、高、山、は、止、
小角は、清、ま、る、淵、の、こ、ま、ま、て、中、に、新、樹、を、落、し、湯
し、て、迦、藍、を、建、ま、り、五、塔、を、毎、年、元、り、り、今、り、ま、る、
修、正、會、を、行、ひ、湯、を、浴、し、富、あり、活、人、本、札、を、名、氏、に、
標、し、綱、む、寺、僧、誰、と、い、く、と、い、ふ、其、言、を、あ、り、と、る、
は、守、と、扱、く、是、氏、の、者、は、大、い、は、得、く、と、い、ふ

(揚) 眞尾寺 福安 揚石 齋那よりあり 池田より二里餘

高野山より幸ふる平觀音新妙觀の化寺於七石
 人皇四十九代光仁天皇自皇の御より宮内電八平の建立開基と
 開成座主より度皇の光仁帝の自皇子桓武帝の御より
 禪より佛敎を伝へ太平神護元年正月元日湯より
 を幸り山より入浴せし先善仲若善二人出所し
 山より皇子二所降して剃髮し開成より以忠孝を
 奉給十年叙若佐を書字し後二の鳥飼を啣ま
 開成より成道後知りて若く若く若くはし又帝
 即ち降より後寺に建つるまでいまだ佛像あり以
 日向園の沙門具日向極末を丹成より寄ると若僧妙觀ま

佛像を造る時より皇承十二年八月十六日今日十八日
 仍く觀音の慈目と方より奉り此より今日まで

極 住吉白馬神交 素 兼揚門神半和名より世傳

明神より若く奉りて献す

八日 内 真言院河修法寺の長者兼宸殿より後

七日の河修法を修りる 金剛界胎藏界の 素 祇園牛王今曉

素 室也堂神敎物初四葉坊門油少落の西より紫雲より

極樂院光持寺と号し室也上人開基也室也堂と

了寺僧兼堂を作て業より山 今又社へ大徳寺より

未て涌経あり辰年 山 吉原乃場より作画像より因性



④六王寺推寺修心云云成り申十二日まで ⑤新築所より

九日 ⑥清経社今日明日の回使日代勤り申年終禮終り

⑦西又居毫毫宗捨州民庫郡より申多神頼り申お殿

八十神大己重命より申伊勢伊弉册の二神燈鬼と生る

此神心より頼り申御社より頼り申天慈頼り申

頼り申風の鳴り頼り申頼り申西乃多頼り申頼り申

頼り申頼り申頼り申一氣の神より頼り申頼り申

頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申

頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申

頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申頼り申

十日 ①建仁寺夷氣 建仁寺向四条の南よりあり

②山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

③山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

④山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

⑤山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

⑥山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

⑦山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

⑧山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

⑨山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

⑩山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

其のつら民慶 社鎮二千石河内能登の領東長門百石と銘と
 越前守御出羽守二百石常陸守の別面社とも百石
 社大納言麻呂出羽守二百石常陸守の別面社とも百石
 十石と銘と。後醍醐天皇以復國院とも号す十石と銘と。本社
 二十人新社家二十人其外新置社僧侶也。女のつらこころ
 有想でいて父も好む法も其男の父も今日布の草子
 書多あきて社家の五其申も五つとも草子も其草子の
 名の甲よ縁と法とも

十一日 系 柳家社奉 五町川柳家あり系伊勢かまきり
 宅地へて遷拜のふ也社殿よく柳の樹は系を成りたりと
 社々有波系りの社酒を献す 系 社家寺大納言者

山 大徳寺大納言 山 月蓮宗法隆寺 山 山崎會合
 山 妙如寺新法 山 相國寺源清忌 江 具足鏡御用
 系 大玉寺今堂新法成布 十日 伊勢寺又又善事始
 尾 直云系 尾法中序那國府又社奉 今日係人と捕
 贊の式あり

十三日 伏 柳斎武村社供 持 俵より河弓 通 大付上
 十三日 山 上賀茂河 柳 柳川上郷 大 中村の小山
 小井の若魚を献す 系 小野と田又牛王加持結縁

系 紙園社粥杖藤氏社拂 山 車折大叙あり候儀あり



Illustration of a woman in a kimono sitting on a tatami mat, looking towards a man who is leaning over a railing. Another man stands behind him, holding a fan. A column of vertical Japanese text is on the right side of the scene.



Illustration of a group of people in a room. A man in a patterned kimono is kneeling and holding a large woven basket. Other people are seated on the floor, some looking towards him. A decorative hanging is visible in the background.

山 土佐神院宮 在事の南吉存院村の芋林の中より在事
 吉行夫人女共志願ふよんで勤修あり此塔の管家代
 の也然亦ふより愛おむも此塔の静結を構へたの極也
 終ひ五十の所ををもつて修し又た建の時も此塔より
 肩達より桂川の舟も移りて終ひきしとて菅原宗茂の
 後社を建て奉るに紀の河基ふも此塔の終り也
 吉行女しより ⑧ 土津葛折 西井 亦より女共を和
 纏くも次々く明りの耀作の用也 ⑨ 伊勢外文抄 亦
 作更 十七巻 ⑩ 江戸芝明林集 ⑪ 河養田水牛 河内
 古市郡養田山宿より ⑫ 瀧沼の五穀粥 佐佐園源坊

社と五穀を奉り竹の筒の入りては以て十の
 ころ ⑬ 洛北妙法社 ⑭ 甲府諸方赤新子嫁と
 ころころあつて諸人群をばして酒を奉り
 ⑮ 内 御粥を献と ⑯ 爆竹 今夜御吉書を御庭
 て三浦折入くはあけり ⑰ 粥本 粥杖もも御吉書
 小したるや女のを打戯るるも打てたるもの甲の
 を生しは納言が枕ぬれもてり ⑱ 山 聖原た我を修す
 ⑲ 永徳寺 在事 同徳寺 山あり 聖原 山 山 山 山
 ち銀四十石文武天皇御年中 同徳寺 新徳寺
 大原の法 中興 同基 永徳 律 師 中興 同徳 寺

諸國年中行事

卷一

厩坂小後て厩坂寺と号し元明天皇和綱三年淡海と号す
今の坂も後して無福寺と号し(筑)筑前守持子の松野子
浦を其基邊相おせり(後)と保奈孫河國彦京那よりあり
近國より馬を寄奉て修と十四日筒粥の法事あり

(山) 爆作とて二月は夷山の海運飾を焼くといは爆作とい
災を吉量とてその人の爆作とい

(十六日) (内) 跨奇斎會 (山) 智月貴新法主 (山) 永新番

大船方 (山) 百万遍名珠也活糸にあり長徳山智園より
より海まゝ四箇の一本寺も似て千石岡山坊院房源
智上人深智の小松内厨子盛とて子備中寺師盛の子園

光古師のりる(磁)磁師希元弘元年天下寂滅(流)

修と云阿上人百万遍と修してふ平安よりよつて

百万遍法寺号とい(東) 嶋磨堂より千本通の少

光明山引接寺と号し奉る嶋磨王定期の法寺也

とる七年(山) 小山石不動系 (山) 金園寺も法水也

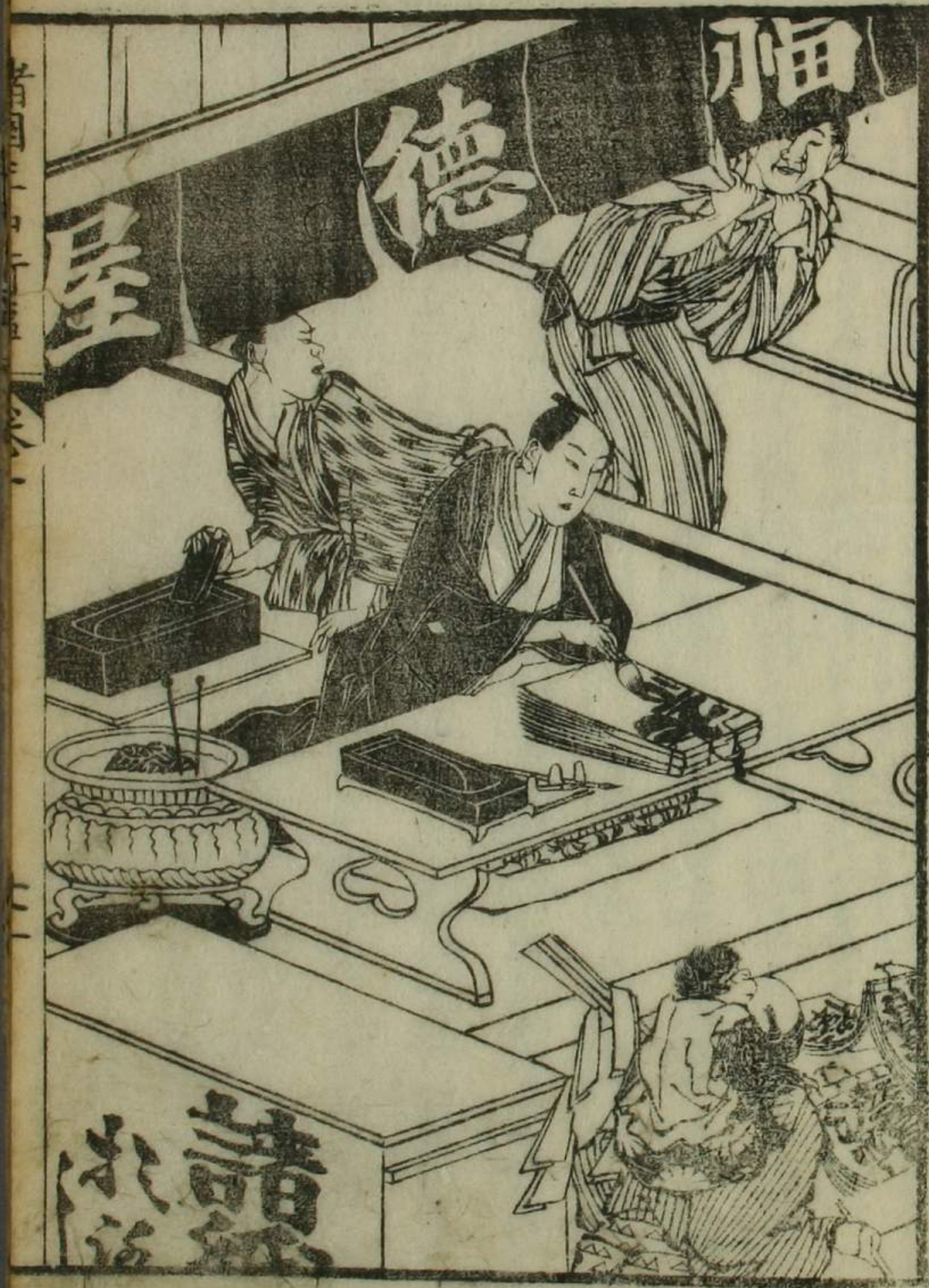
あり鹿苑とて号し寺也之百石後小松院意永四

年定利藤院義満公の建立より法号を鹿苑院也

道義大居士と号しけ坊を義満公の山莊より使中し

と重(殿)園あり中一を法水院と号し(本)本寺も新田右近

権より其意を伴(道)道新の像と号すと(才)才二と潮寺洞と号し(自)自持本の教言(才)才三と(四)四天王あり



⑫ 坊心寺の門のまはりにあり ⑬ 石部あり ⑭ 石部あり
 ⑮ 石部あり ⑯ 石部あり ⑰ 石部あり ⑱ 石部あり
 ⑲ 石部あり ⑳ 石部あり ㉑ 石部あり ㉒ 石部あり
 ㉓ 石部あり ㉔ 石部あり ㉕ 石部あり ㉖ 石部あり
 ㉗ 石部あり ㉘ 石部あり ㉙ 石部あり ㉚ 石部あり
 ㉛ 石部あり ㉜ 石部あり ㉝ 石部あり ㉞ 石部あり
 ㉟ 石部あり ㊱ 石部あり ㊲ 石部あり ㊳ 石部あり
 ㊴ 石部あり ㊵ 石部あり ㊶ 石部あり ㊷ 石部あり
 ㊸ 石部あり ㊹ 石部あり ㊺ 石部あり ㊻ 石部あり
 ㊼ 石部あり ㊽ 石部あり ㊾ 石部あり ㊿ 石部あり
 毎月十二日の夜に燈籠を焚くこと五十九日十夜の夜に燈籠
 焚くこと五十九日十夜の夜に燈籠

① 道後十六夜 伊勢由良後の右乃方山紙村にあり
 採りし毎のけ日たて同く採りし四月十六日採りし
 ② 山 精進頭 上野原の氏人五人今より明本正月まで
 まで日々賑祭と称し本社并本田の社に詣りて五日の間に
 赤紙を渡して途中に畑と居りてその祭を修す
 ③ 天王寺法楽 灯籠は金堂を修す秘法本寺 ④ 河内五社
 山 小は村本村あり ⑤ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井
 ⑥ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑦ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑧ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑨ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑩ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑪ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑫ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑬ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑭ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑮ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑯ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑰ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑱ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑲ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ⑳ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉑ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉒ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉓ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉔ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉕ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉖ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉗ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉘ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉙ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉚ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉛ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉜ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉝ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉞ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㉟ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊱ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊲ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊳ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊴ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊵ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊶ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊷ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊸ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊹ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊺ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊻ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊼ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊽ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊾ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井
 ㊿ 山 義長 尾井 唱門 脚入 尾井 尾井 尾井 尾井 尾井

津東(山) 上御靈大社若(山) 宮如堂大社若(山) 山崎皇寺

鬼雄 夜山崎より補陀落山宝積寺より寺六十六石

聖武天皇之御魂四千勅取岡山山崎基三層屋宇なる所物

毘沙門天焼失の後安河保の飛鳥寺を移建より新武蔵守

持より打出の小槌あり (後) 又王寺を寺堂造り音楽 南并

(後) 新清水寺親善供天寺の西より有拙川山より河内郡

近海の建立本尊千手観音の聖徳太子の御代より御代

新清水寺の別院ありしを此地に移安置は地籍毘沙門の

堂方古よりあり氏以て活の清水寺の服王より寺ありてあり

新清水の寺より号(南) 真徳寺牛王南郡より十四りより牛王

加持あり今日礼を施と此礼を門戸に施し又徳大寺と云

く小玉宮あり (江) 淡年親善寺毎月あり金純山より氏

武新園寺修那法州より寺紅五百石坊舎四十一箇寺

新寺正親寺推古天皇の御宇此地に移と中興本在流

の御宇より大慶五年河内郡司平云推武新園の寺より女御

は修く女御寺を建立して田園以て寺あり (後) 西大寺より寺

備前前園より今日親善寺と云んと云ふ所の寺あり

諸人は是を修造し御代より諸人御代より御代より

(後) 志波瀬瀧波四より人集り耳以地より西大寺活の

是より海よりと岡が御代より

清明有
校河之戲
其法以大麻綱兩頭
各繫十餘小索數
人執之對抗以強弱
為勝負五雜俎
出せりこと吾朝の
細曳と仰る



山 八幡夜神奇 へつと山 若院 湯と浴人 破屋 弓毛
焼く 室く ちやげとと

二十日 本園寺 日嗣上人 ちやん 論 説 三升 拾 時里
系 拾 海 玉 ぬ 成 郡 此 里 村 あり 系 拾 恒 吉 明 作 乃 法
後 彦 連 立 と 乃 修 後 彦 の 齋 十二 家 あり ちやん 狸 新 船
魚 と 神 供 と 辰 女 繫 と ちやん 路 ちやん 裁 ちやん ちやん 一 枚 ちやん
女 ちやん ちやん ちやん 寺 御 法 楽 ちやん ちやん

二十日 山 清水寺 吳院 大叔 若
二十日 山 右養子 臺 大 玄 音 寺 洛西 寺 亦 以 あり 廣 原
寺 ちやん ちやん ちやん 六 万 八 千 神 名 塚 尾 寺 推 古 天皇 十一年 百

濟國より全相親等の像を勧る聖徳太子に古所法にて
 茶川坊阿弥陀寺を造りてこれに安置して法華經を
 より勧勤の像を勧る又坊にちふは法華經を
 改む清和天皇御石像時あるの傍道昌坊阿弥陀
 寺の聖師が末を奉じて行ふ立礼は平金一に於て今
 奉るに似たりを奉るに聖徳太子二十二年の像と安
 御即位の後御衣を以て像を御の桂宮院より奉り十六
 日像と安とせ奉るに聖徳太子の堂より奉りて古所法なり
 山 大野野系 山 上寺相殿野系
 山 大野野系 山 上寺相殿野系
 山 大野野系 山 上寺相殿野系
 山 大野野系 山 上寺相殿野系

三十三 山 大將軍大々三井 山 本山岩西寺親世佛
 開張 正九月より田の南あり妙惠山より尺 園白寺法公
 乃建立日蓮宗あり 山 八幡姫を律文園忌己井
 下 相馬妙見を宗上徳園より七人元日より今りまで解を
 吹くふくは松本氏
 三十四 京 兩宗慈寺 高光寺 宗忌今所日 西寺井 己井
 山 西石川阿弥陀 山 天王宮 宗忌今所日 山 夢心寺
 山 高光寺 師街 宗忌今所日 山 新々寺 宗忌今所日
 山 西岡 宗忌今所日 山 江戸 宗忌今所日
 月付 宗忌今所日 月をねむ

廿七日 山 大通寺 室宿公忌 己未年 源頼朝公の才頼朝公の

子孫公三代の將軍 承久元年二月廿七日 豊光寺

廿八日 山 東寺 牛王 山 牛久保系 ありあり 山 小山

石物あり 山 泉涌寺 舍利堂 大仏の南あり 寺元六

百八十一石 文治天皇 壽永三年 大仏 徳嗣 建隆 建隆六

年 大仏 中京 住房 西法寺の 徳初 といひ 住持あり

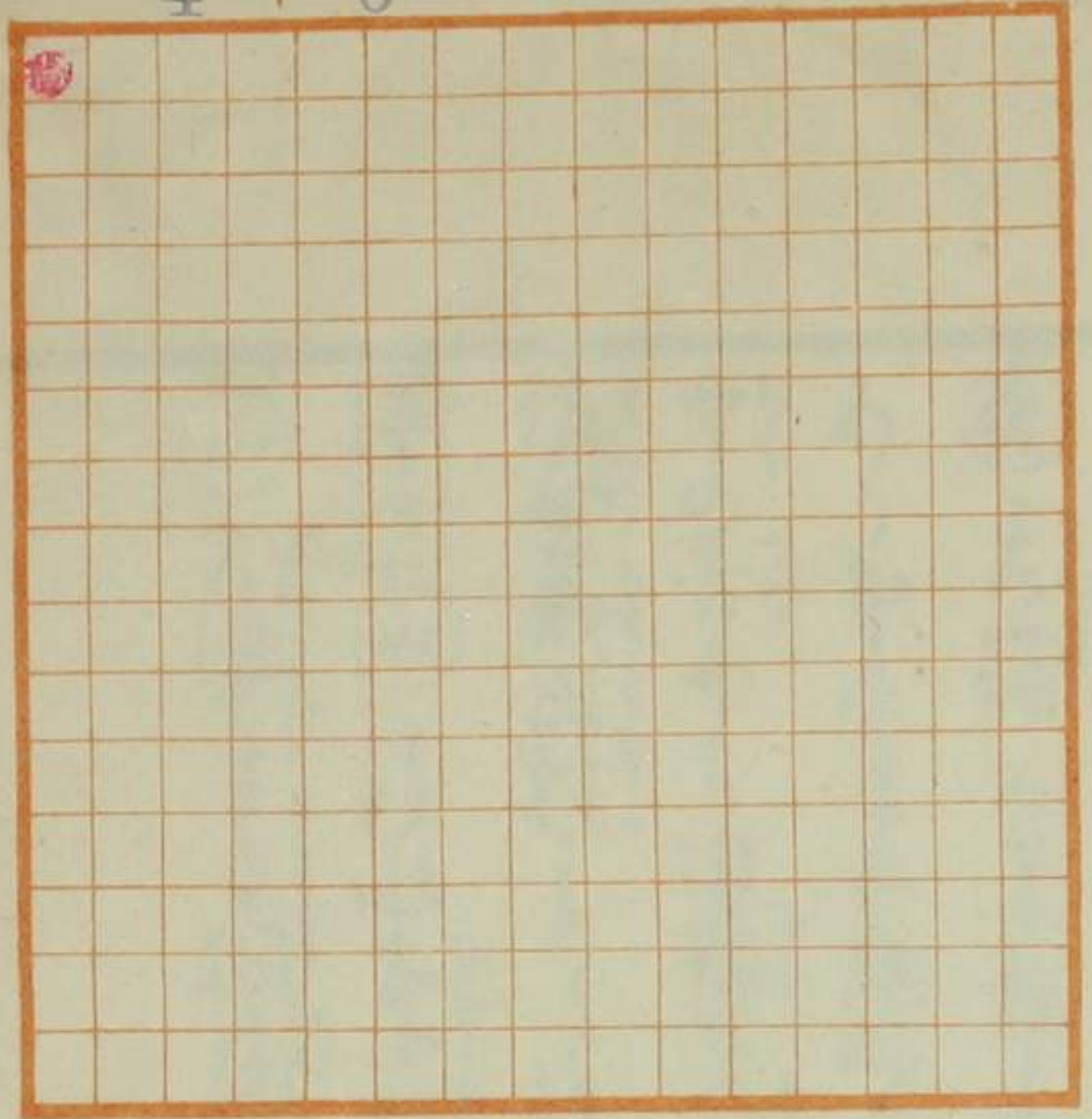
と 住持あり 其後 由融院と 葬あり あり 承徳の 後

あり あり 書斎の 二世 徳海 宗に あり 頼朝 周舟の 才

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

4年6月



舍利堂あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

江 月 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

